

第2回 いいたてほんの森まつり 交流センターが「ほんの森」になる特別な1日

8月1日、交流センター「ふれ愛館」で、ボランティア団体「いいたてネットワーク」主催の『いいたてほんの森まつり』が開催されました。震災の影響で惜しまれつつ閉店した村営の書店「ほんの森」に想いを重ねたイベントです。

ホールにさまざまなコンセプトの古書店が書棚を並べ、店主がセレクトした絵本や小説、こだわりの実用本や貴重な古書などを販売。来場した皆さんが、本談義に花を咲かせながら、「ほんの森」の散策を楽しみました。



1



2



3



4



5



6

1・2) 県内外の古書店が出店し、1冊1冊の魅力を丁寧に伝えながら選書のアドバイス。来場者はゆったりと各店を巡り、さまざまな本との出会いを楽しんでいました。
3) 交流センターの白いピアノ「織里音(おりおん)」の調べが彩る絵本の読み聞かせも。
4・5・6) 村民有志や福島大学の学生によるさまざまなイベント、作品の展示販売なども行われました。その他、この日に合わせてブレンドされたコーヒー「ほんの森ブレンド」や学生主催の「いいたて村の村民食堂」も人気を集めました。

〈編集後記〉

私が小学生の頃、地区の盆踊りは自分にとって一番の楽しみでした。いろいろな仮装をして町を練り歩く「仮装盆踊り」で、私も毎年いろいろな仮装をしたこと覚えています。今思えば、私を楽しませるために趣向を凝らした衣装を毎年つくってくれた母や、その姿を見て笑顔でほめてくれた家族、地域の皆さんがいたからこそ、大切な思い出になったのだと思います。あらためて感謝を感じた盆踊りの取材でした。(巻野)

オーストラリアの語学研修に参加した生徒さんがレポートに綴った率直な言葉。旅で見つけた宝物を分けてもらったような気持ちになりました。ライター 駅伝では仲間を想いタスキをつなぐ姿に胸がぎゅっとなって子ども達にたくさん勇気をもらった夏でした。(星)

「10年後への手紙」発送します

平成28年の立村60周年に合わせて実施した「続・10年後への手紙～大切なあなたへ～」プロジェクトで預かりした1043通の手紙を70周年を迎える9月30日に発送します。



誰にどんな手紙が届くのでしょうか。楽しみにお待ちください。



お願い

宛名の方が引越などで当時と異なる住所にお住まいの場合はお知らせください。

問 村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613